



平成 22 年 12 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 姚 健
問合せ先 専務取締役 児玉俊明
電 話 03-5637-0505

営業外収益、特別損失の計上及び通期個別業績予想の修正ならびに
平成 23 年 1 月期連結決算の開始に伴う通期業績予想に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 1 月期(平成 22 年 2 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日)第 3 四半期(平成 22 年 8 月 1 日～平成 22 年 10 月 31 日)におきまして、営業外収益、特別損失を計上する見込みとなりました。

併せて、最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 3 月 16 日に公表いたしました通期個別予想を下記の通り修正いたします。

また、平成 23 年 1 月期第 3 四半期(平成 22 年 8 月 1 日～平成 22 年 10 月 31 日)より、連結決算に移行いたしましたので、平成 23 年 1 月期通期連結業績予想をお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の内容及びその金額について

当社は、平成 22 年 3 月 12 日付「特別損失及び法人税等還付税額の計上ならびに平成 22 年度 1 月期通期業績予想(非連結)の修正に関するお知らせ」にて開示いたしました特別損失のうち、不採算店舗の閉鎖に伴い中途解約費用及び原状回復費用を計上いたしておりましたが、第 3 四半期(平成 22 年 8 月 1 日～平成 22 年 10 月 31 日)に閉鎖しました店舗においてデベロッパー等と交渉の結果、実費用が減額となり差異が生じたので、店舗閉鎖益として 36 百万円の計上となりました。

2. 特別損失の内容及びその金額について

非連結子会社であります、Crymson USA INC. への貸付金に対する貸倒引当金の追加計上として 17 百万円の計上となりました。

3. 個別業績予想の修正について

平成 23 年 1 月期通期個別業績予想の修正(平成 22 年 2 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	5,000	80	40	10	円 銭 414.37
今回修正予想 (B)	4,763	△397	△335	△368	円 銭 △15,248.83
増 減 額 (B-A)	△237	△477	△375	△378	
増 減 率	△4.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 1 月期)	7,415	△540	△514	△889	円 銭 △36,877.94

4. 業績予想の修正について

当事業年度において、当社が参画いたしますカジュアルウェア市場では、消費者の生活防衛意識や節約志向が根強く、低価格志向や慎重な消費傾向が継続したことに加え、記録的な猛暑により個人消費意欲の減退が一層顕著となり秋冬商品の動きが出遅れるなど、非常に厳しい環境が継続しました。このような厳しい状況の中、当社におきまして営業面では、主軸事業であります卸売事業を中心に、プロモーション戦略ブランドであります「RUSS-K」(ラスケー)において、全社キャンペーンを展開しました。

新規顧客の獲得と拡大を目的に今秋よりブランドイメージキャラクターを一新し、秋シーズンにおける新規プロパー(正規品)商品の販売強化に努めました。

卸売事業においては、シーズン初回商品投入に関しては当初予定通り推移したものの、実需期における商品の追加フォロー受注が予測を下回りました。また 8 月以降も高気温が続く天候不順の影響もあり、またプロパー(正規品)販売率の低下や、夏シーズンのセール品販売等により販売単価が下落しました。

ライセンス事業においても、市場における消費マインドの冷え込みや大手 GMS 等の商品開発による PB 化の影響により苦戦となりました。

小売事業につきましては、上半期より引き続き不採算店舗の閉鎖を実施し収益性の改善及び効率化を重視した販売活動を実施しました。市場における低価格志向に対応し売上高の確保を目指し閉店セールや店外催事等を強化しました。セール販売の強化に伴い販売単価は下落しましたが、買い上げ客数が増加したことにより売上高は概ね想定内となりました。以上の通り、売上高につきましては前回予想の 5,000 百万円から 4.7%減少し、4,763 百万円となる見通しです。

利益面につきましては、卸売事業のプロパー(正規品)販売の低下及び小売事業の閉店セール等による影響から販売単価も下落し、結果売上総利益も減少する見通しとなりました。一方、販売費及び一般管理費につきましては、不採算店舗の閉鎖等による地代家賃や人件費をはじめとする諸経費を削減するなど圧縮に努めました。しかしながら、売上高及び売上総利益の減少分を販売費及び一般管理費の削減ではカバーすることが出来ず、結果、営業利益は前回予想から 477 百万円減少し 397 百万円の営業損失、経常利益は前回予想から 375 万円減少し 335 百万円の経常損失、当期純利益は前回予想から 378 百万円減少し 368 百万円の当期純損失となる見通しです。

5. 連結決算の開始について

当社は、平成 21 年 8 月 28 日付で当社 100%出資子会社として中国に可麗美（北京）国際貿易有限公司を設立しました。前四半期まで子会社の資産、売上高、損益その他の項目から見て重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりませんでした。立ち上げ期を脱し資産等の状況に重要性が増したため、当第 3 四半期末より連結決算へ移行することといたしました。

6. 連結業績予想について

平成 23 年 1 月期通期連結業績予想(平成 22 年 2 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
通期連結業績予想	4,816	△397	△335	△368	円 銭 △15,248.83

(注) 前事業年度は連結決算を行なっていないので、対前年比は記載していません)

7. 連結業績予想の概要

上記通期連結業績予想は連結決算となりました可麗美（北京）国際貿易有限公司の第 4 四半期の業績予想を取り込んだ数値となります。今回修正しました個別業績予想数値に対し、売上高は 53 百万円程度の増加を予想しており、また営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、影響額が軽微である見通しのため、個別業績予想と同額となる見通しであります。

以上